小金井のごみはどこへ行く？

2002年の「散歩だより45号」で小金井のごみの行き先を調査してから17年…
今はどうなっているのか調べてみました。

☆ 市民一人当たりの排出量は？ ☆

市が掲げる一人当たりの目標排出量272.2gに対し、2018年度は263.0gで、9.2g下回る結果に ☺

有料袋 可燃

◆西多摩郡日の出町にある二ツ塚廃棄物広域処分場でエコセメント化され、普通セメントが使われている同じ分野（土木・建築工事、コンクリート製品等）で再利用
◆乾燥生ごみは、群馬県にて発酵過程を経て農業用堆肥（肥料）にリサイクル

◆ペットボトルは、選別後、茨城県などの工場でペレットやフレーク状に加工し再生ペット製品にリサイクル
◆金属、非鉄は、都内・千葉県などでプレス、スクラップ後リサイクル

有料袋 プラ
有料袋 不燃

◆埼玉・千葉・茨城県の工場に運ばれ、マテリアルリサイクル(※)またはケミカルリサイクル(※)

※マテリアルリサイクル・・原料を処理して、同じ製品やプラスチック製品の樹脂原料として再利用
※ケミカルリサイクル・・熱分解し合成ガスや分解油などの化学原料にしたり、他の化学物質に転換し化学製品の材料、製鉄所で使う還元剤、可燃性ガス、油にして再利用

◆群馬県の工場で破砕チップ化し、バイオ電力、堆肥、家畜の敷料、マルチング材にリサイクル

◆びんは、神奈川県で色分けカレット材化し生びんにリサイクル
◆スプレー缶・有害ごみは、北海道・関西の工場で選別処理され、様々な原料や製品にリサイクル

◆都内・北海道・栃木・静岡・神奈川・茨城県の工場へ
◆紙類は、紙器、雑誌、ダンボールにリサイクル
◆布は、洗浄処理されリサイクル

粗大ごみ

◆木質は茨城県でチップ化され1日1万軒に相当する発電用の燃料にして売電
◆繊維クズは破砕処理後、固形燃料に再利用

2002年の調査時、トレーが海を越え中国に行っていましたが、現在ではごみのすべてが国内でリサイクル処理されていることが分かりました。

さらに、各業者の環境問題への取り組みの向上により、ほとんどが関東近郊で処理されるようになりました。輸送距離が短くなったことでCO2排出量の削減にも寄与しています。

しかしリサイクルするにも、たくさんの地球資源が使われています。何よりも、ごみの排出量を減らすことが、地球を守り生命が健やかに過ごせる最善の方法ではないでしょうか。（担当：春原）

＊調査報告の詳細は市民自治こがねいのHPに掲載しています。

■「市民自治こがねい」とは

この小金井が、ひとりひとりの人権が尊重され、だれもが生きいき暮らしつづけられる町であってほしい、この小金井を自治が息づく町にしたい。そのために市民自らが発言し、行動し、市政のあり方を変え、町づくりを進めていこう―そんな共通の思いをもつ市民たちのあつまり。それが〈市民自治こがねい〉です。

●会員を募集しています＆カンパ大歓迎！
・会費　１口＝3000 円／年
・賛助会員　１口＝１万円／年
・ニュースカンパ　１口＝1000 円／年
郵便振替 00130-6-352041 市民自治こがねい

https://www.sijiko.com

市民自治こがねい広場
散歩だより
No.101
2019年６月10日発行

編集・発行　市民自治こがねい
〒184-0012　小金井市中町1-2-47　佐藤気付
Tel:090-6423-8702　https://www.sijiko.com/

特集

ちょっとボーっとしすぎ!? 小金井の地球温暖化対策 CO2削減大ピンチ

今年は５月に連日の猛暑日、ゲリラ豪雨が列島を襲っています。地球温暖化の影響は、年々深刻化しています。

今回の特集では、ＣＯ２排出量ゼロに向けて、再生可能エネルギーへのシフトチェンジを中心に、地域において、市民にできること、市として取り組むべきことなどを考えます。

多摩地域ＣＯ２削減率ランキング
小金井市 26 市中 23 位

小金井市は、２００９年に「地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、ＣＯ２排出を「２０２０年に27％削減（２００６年比）」と定めましたが、一度も１００％を下回らず、２０１６年度でも約９％増加。多摩26市のＣＯ２排出量削減率ランキングでは23位。日本全体、東京、小平市（多摩26市ランキング２位）と比べても小金井市は明らかに深刻です。私たち小金井市民は、「地球温暖化」に、あまりにも無自覚に過ごしているのではないでしょうか。

小金井市の「推進計画」は、この10年間、結果を出せず、将来に「大きなツケ」を残し、来年に終了します。そして、来年は、２０２１年から２０３０年までの「第２次推進計画」策定に入ります。大胆で意欲的な削減目標と対策、そして実行力が強く求められます。

温室効果ガス(主にＣＯ2)の排出量がこのまま推移すれば
21世紀末には

※1

東京の気温は44度!!

「パリ協定」(2016年)では、「産業革命前と比べて世界の気温上昇を1.5°C未満をめざす」ことが確認され、2050年頃CO2排出を「実質ゼロ」、自然エネルギー100%にシフトすることが約束されました。

あなた方は、自分の子どもたちを何よりも愛していると言いながら、その目の前で、子どもたちの未来を奪っています

※2

グレタさん　演説　検索
← おススメはＣＮＮ

スウェーデンの高校生グレタ・トゥーンベリさんは、昨夏、気候変動の危機を訴え、１人で「学校ストライキ」を始めました。その行動は瞬く間に世界に広がり、「FRIDAYS FOR FUTURE(未来のための金曜日)」というムーブメントになりました。

※3

グレタさんは昨年12月には国連気候変動枠組み条約締約国会議 (COP24)でもスピーチし、今年3月15日には125か国140万人、5月24日には180万人の若者が世界一斉デモに参加しました。

【グラフ出典】ECOネット東京62(all62.jp/jigyo/ghg.html)　環境省(https://www.jccca.org/chart/chart04_03.html)　WorldBANK(https://data.worldbank.org/indicator)　小金井市地球温暖化対策地域推進計画【画像出典】※１環境省（https://www.youtube.com/watch?time_continue=8&v=h-ICELS3NPg）※２国連報道センター（https://www.youtube.com/watch?time_continue=8&v=h-ICELS3NPg）　※３a2larm（https://a2larm.cz/2019/02/fridays-for-future-cesti-stredoskolaci-se-pridavaji-k-protestum-za-ochranu-planety/）

省エネ、節電＆再生可能
エネルギーシフトで脱炭素社会へ

CHANGE Ⅰ
公共施設のCO2排出量の劇的削減を

小金井市の公共施設のCO2排出量は2006年比で2020年までに14.7%減が目標でしたが、2017年にはなんと**36.7%増加。**市の報告書でも「努力の成果が見えないため、取組みへの意欲を失うだけでなく、批判の対象となりかねない。」と指摘。先導的役割を果たすべき市が残念ながらこの実態です。

お隣の小平市は「太陽光発電日本一」を掲げ、公立保育園、小中学校など公共施設36か所に太陽光パネルを設置してきています。小金井市は10か所です。このような取組みの遅れもありCO2増加を招いています。

公共施設

⇒太陽光パネルの積極的な設置をすすめよう

⇒供給電力を再生可能エネルギー100%へ

⇒新築、建て替え、リフォームにあたっては、省エネ、創エネシステムを

Episode
世田谷区庁舎が再生可能エネルギー100%へ切り替え そして「RE100」へ

世田谷区は、区立の全保育園に加え、今年4月から本庁舎で使用する電力を再生可能エネルギー100%に切り替えました。これによる年間CO2削減量は東京ドーム約39個分、約181ha、ブナの木に換算すると約90,700本に相当します（植物が吸収するCO2排出量を森林面積に換算）。

世田谷区はさらに自治体版「RE100」をめざそうとしています。「RE100」とは事業運営に必要なエネルギーを100%、再生可能エネルギーで賄うことを目標とする国際的な企業連合で、現在164社が加盟しています。ナイキ、ネスレ、イケアなど日本でも馴染みのある企業が名を連ね、自治体での動きも始まっています。

CHANGE Ⅱ
家庭でもデンキを選ぼう
誰でもカンタン！

2016年から家庭でも電力会社を選べるようになりました。再生可能エネルギー重視の会社へ切り替えCO2排出量を削減しましょう。手続きは極めてカンタン。

小金井は家庭からのCO2排出量が全体の**51.2%**と高く、家庭でのCO2削減は重要です。省エネ家電、照明、太陽光パネルの設置などに加え、電力会社を選ぶことで地球にやさしい未来を選ぶことができます。

（参考）
パワーシフト

Episode
中嶋さんちの場合

2016年7月に自宅を、エネルギー消費量が1／3に抑えられるというエクゼルギーハウス（注）に建て替えました。猛暑日、帰宅した時に感じる心地よい涼しさはありがたいものです。外気温度とは、少なくとも3～4度違うように思います。2階の人の集まる部屋には、小型のクーラーを1台つけましたが、1階は扇風機のみで過ごしています。冬場はその逆で、暖かく過ごすことができます。外気を遮断する周囲面プラス扉の効果は絶大です。

さらに2017年からは、東京電力から生活クラブエナジーへ電力供給を切り替えました。東京電力は火力発電への依存度が高いので、CO2排出量が多くなります。生活クラブエナジーは、再生可能エネルギーの割合が約60%、CO2排出量は当然少なくなりました。屋根には1.6KWの太陽光パネル。売電をしているため年間通すと電気代はほとんどかかりません。節電に心掛け、30Aの範囲で賄っています。

（緑町・中嶋直子）

(注)エグゼルギーハウスについては
「環境楽習館」へ　☎042-381-5006

CHANGE Ⅲ
市民発電所を地域に
市民、事業者、行政の協働を

「NPO法人こがねい市民発電」が地域の寄り合い所「また明日」に太陽光パネルを設置し、発電を始めました。小金井での市民発電所第1号です。いま、各地で再生可能エネルギーによる市民発電所の動きが活発化しています。

市民や地域が主体となって、寄付や出資、行政の補助金をもとに、NPO法人や民間会社が設置し、太陽光、風力、水力などで発電します。都市部では、太陽光パネルを民家や保育園、公民館、学校などの屋根に取り付けることが多いです。事業を通じて仕事を生み出し、元気で魅力ある地域づくりにつなげています。小金井でも、市民、事業者、行政の協働の取り組みで、地域にクリーンな再生可能エネルギーを増やし、そのエネルギーを地域で使う、エネルギーの地産地消を実現しましょう。

問われているのは、私たち。
市民の提案で、新たな「推進計画」を！

小金井市の「第２次推進計画」（2021年～30年）に向けた策定作業が2020年に行われます。
策定委員会の市民委員公募は2020年１月に行われる予定です。

CHANGE Ⅳ
省エネ社会でCO2削減を加速

CO2排出量を減らすためには、エネルギー消費量の意欲的目標の設定と劇的削減が必須です。

小金井市はエネルギー消費量を2006年を基準に2020年までに14%削減を目標とする「推進計画」を立て、2016年で12%減となりました。ところが表紙のグラフの小金井市のCO2排出量を見ると、同じ10年、増加ゾーンを推移しています。この程度のエネルギー消費量削減レベルでは、火力発電依存の高まりなどによって、CO2排出量の削減にはつながらないのです。ちなみに小平市は2020年エネルギー消費量削減目標を意欲的な25%に設定し、すでに2015年で27.6%削減に成功しています。このレベルに達すると、CO2排出量も削減ゾーンに入ってきます。やればできます。

エネルギー消費量削減は、省エネ、節電、創エネが重要です。最近は、建築分野でも商業施設・事業所・公共施設などの新設、改修の省エネルギー基準が義務化され、個人住宅も省エネ、創エネなどでエネルギー消費量を「ゼロ」にすることが政策目標とされ、支援策が始まっています。

ライフスタイルの見直し、緑地保全、環境優先などエコロジカルな視点でのまちづくりとCO2削減をリンクすることも求められます。

Episode
新庁舎・新福祉会館は、どうなる？

「基本計画」作成の受託会社の技術提案書を見てみると、「パッシブ手法（エネルギーを極力必要としない）を主体にアクティブ手法（エネルギーを無駄なく上手に使う）を効果的に組み合わせ、心地よい環境をつくりつつ『ZEB Ready』庁舎を実現します。」としています。「ZEB」とは、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルのこと。「ZEB Ready」はエネルギー消費50%削減を意味します。更なる省エネと太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入で、100%以上の省エネルギー「ZEB」をめざして、新庁舎が他の公共施設、商業施設などのモデルケースになってほしいです。